

平成30年度 宮田中学校グランドデザイン

宮田村教育大綱
郷育
故郷に生き 故郷を愛し 故郷を創る 人財の育成

宮田村立宮田中学校

- 生徒の日々の取組**
(本校の特色ある活動)
- ①校門での一礼
(感謝の心・自己をみる心の育成)
 - ②朝の一斉読書
(読解力・思考力の育成)
 - ③全校ランチルーム給食
(連帯感・マナーの育成)
 - ④一心不乱の清掃
(自立心の育成)
 - ⑤「自問の時間」の設定
(自己評価力の育成)
 - ⑥身だしなみ集会
(自浄力の育成)
 - ⑦アルミ缶・空き瓶回収
(勤労・奉仕の心の育成)
 - ⑧梅の木の管理と収穫
(愛校・愛郷心の育成)
 - ⑨親子作業・親子運動
(絆の醸成)

学校教育目標
自分の姿を見つめ心豊かに伸びる
～教育理念【自己をみる】～

- 学力向上・生徒を育むための教職員の取組**
- ①主体的・対話的で深い学びの実践と PDCA の推進
 - ②3部会による授業研究と小中連携研究
 - ③地域に開いた総合的な学習、キャリア教育の推進
 - ④職員会議での全国学調結果の分析研修
 - ⑤Q-U, CRTの活用
 - ⑥不登校傾向生徒へのチームによる支援と保護者との継続的な懇談
 - ⑦生徒指導事例研修・非違行為防止研修
 - ⑧講師に学ぶ特別支援研究会・防災研修会
 - ⑨子どもと向き合う時間の確保、長時間労働改善のための働き方改革
 - ⑩「研究主任だより」発行

願う生徒像
○生きて働く知識・技能を得て、使うことのできる生徒
○人とかかわり合い、共に成し遂げようとする生徒
○学びを人生やふるさと宮田に生かそうとする生徒

- 学校経営の重点**
- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 学力の向上 | 3 体力の向上 |
| 2 心の成長 | 4 キャリア教育・総合的な学習の時間の充実 |
| (1) 差別のない集団 | 5 食育の推進 |
| (2) 不登校傾向生徒の減少 | |

手立て

- 【知識・技能を得て、使える力】**
- 1 授業改善・学力向上のための取組
 - (1) 授業の3観点の「ねらい」と「振り返り」に重点を置いた改善
・「めあて」や「学習課題」の板書
 - (2) 理解→判断へと発展する単元構想
 - (3) グループや全体での生徒による話し合い、学び合いを位置づけた授業
 - (4) 授業の終末で、次時の学習問題に対し自分の考えを書いて終わる1時間構想
 - 2 授業改善や学力向上を評価する検証方法
 - (1) 全国学調で県平均を上回る。
 - (2) 全国学調の「授業で、生徒間で話し合う活動を行っていた」、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」で、当てはまる生徒の割合が県平均値を上回る。

- 【人とかかわり、共に成し遂げる力】**
- 1 主体的・対話的で深い学びを目指し、目的的にかかわり合うグループ追究やバスセッションの推進
 - 2 総合的な学習の時間で、アイデアを出し合い、友と共に創り上げるグループ毎のプロジェクト学習
 - 3 土曜学習で異学年での学び合いにおけるできた喜びの実感、異学年清掃・給食によるアイデア交換やコミュニケーション力の向上
 - 4 懇談時間(月曜日)や土曜学習など、自ら求め学ぶ場の設定

- 【学びを人生や宮田に生かそうとする力】**
- 1 「知ろう!宮田村」(1年)「体験しよう!宮田村」(2年)「よりよくしよう!宮田村」(3年)に基づき、地域に根ざし、地域を題材とした学年総合の推進
 - 2 宮田村の企業や先人の生き方に学び、人生に生かすキャリア教育「宮田村キャリア教育フォーラム」(2年)「宮田村子ども議会」(3年)への参加
 - 3 「チャレンジ☆トライ」で支援ボランティアから学ぶ体験学習
 - 4 宮田村と関わる活動への参加

山と語り流に思ひ
風に聞き雲と遊ぶ
うるはしき心のしらべ
あめつちとともに
昭和五十二年夏 順三

家庭・地域との連携
総務・3委員会・地区会長会・学年によるPTA活動
宮田村学校支援ボランティアの充実

自己をみる